

2020 Spring Indonesia Camp Camp Report



2019夏、インドネシアキャンプ
村の小さな病院の病室で始まったストーリー
そこで種をまき、芽を出し、スタートを切った

FIWC九州2020年春インドネシアキャンプ

何もないところで新たな道を作るように
一から自分たちで、自分たちのキャンプをつくりあげてきた。

「インドネシアで、たくさんの笑顔の花を咲かせたい」

自分たちが村人のためにできることは何だろうか。
みんなで一生懸命考えた。

盛大に花が咲くように、みんなで大切に育ててきた。

しかし、キャンプは中止になってしまった。

ここでインドネシアキャンプは終わりなのか？
いや、そうではない。

「ここまで育ててきた花が枯れることなく 次に繋がるように、力を蓄え続けていこう。」

そんな思いで作上げたこの報告書。
私たちの育てた花がいつか盛大に咲くことを願って。

2020年春インドネシアキャンプリーダー
久保山亜美

Contents

Prologue	1
Contents/Camp Theme	2
What is FIWC?	3
About Leprosy	4
About Indonesia Camp	5
Research Camp 2020	7
Camp Schedule	14
Leaders Report	25
Member Profile	34
Feelings	39

Camp Theme

2



Indonesia Camp 2020 Spring Camp Theme

今年のインドネシアキャンプのキャンプテーマは「咲」。

「咲」という漢字には昔「笑」という意味がありました。

このキャンプを通して、村の方々やキャンパーに沢山の笑顔が咲いてほしい。

そして、村の方々とキャンパーの出会いによって咲いた笑顔がみんなに伝染して、お互いが夢を与えられる存在になることを願ってこのテーマのもと13人全員で頑張ってきました。

🌸 FIWC とは？

FIWCとは、フレンズ国際ワークキャンプ (Friends International Work Camp) の略称です。第二次世界大戦後復興のため、アメリカ・フレンズ奉仕団 (AFSC) がワークキャンプを日本で実施したのが始まりで、1950年代にAFSCから独立し、FIWCが結成されました。それ以来FIWCは、国内外でワークキャンプを60年以上実施しています。現在その支部は全国に広がり、FIWC 関西委員会、関東委員会、東海委員会、九州委員会が活動しています。

私たち九州委員会は九州 (主に福岡) の大学生が主体となり、学生のみで運営・活動しており、国外ではフィリピン・中国・ネパール・インドネシア、国内では耶馬溪の農業キャンプや国立ハンセン病療養所などを中心に活動しています。

また、私たちFIWCは、一般市民・学生による任意の非政府組織 (NGO) であり、いかなる政治・宗教団体とも一切関係のない学生団体です。



🌸 ワークキャンプとは？

ワークキャンプとは、ボランティアの形態の一種で、外部から支援するのではなく、現地に赴き、そこで共同生活をしながらその場所で必要とされているワークを行うキャンプのことです。

あなたのために働く “Work”
社会問題の現場で生活する “Camp” ⇒ **WorkCamp!**



🌸 ハンセン病とは

私たちがインドネシアキャンプで出会うのは、『ハンセン病快復者』と呼ばれる人たちです。
 では、そもそもハンセン病とはどんな病気なのでしょうか？
 そして、『ハンセン病快復者』とはどのような方々なのでしょうか？

① ハンセン病とはらい菌による感染症です。

らい菌により感染すると、知覚の麻痺や身体の変形といった症状が現れます。過去、ハンセン病は「不治の病」と恐れられましたが、現代では治療法が確立されており、無料で治療を受けることができます。また、ハンセン病の感染力は非常に弱く、衛生状態、健康状態がひどくない限り発症する可能性は極端に低いです。

② ハンセン病患者は世界中で差別された歴史があります。

先述した通り、当時ハンセン病は不治の病とされた感染症であったため、世界中で隔離政策がとられました。また、ハンセン病を患った方の身体の変形や感染への恐怖心からも様々な差別が行なわれてきました。各国の隔離政策により、患者自身は社会から疎外された生活を余儀なくされ、現在でも、ハンセン病快復者への差別・偏見が残る地が多くあります。

🌸 インドネシアのハンセン病事情

「インドネシアのハンセン病患者数は、インド、ブラジルに次いで**世界第三位**です。2000年に制圧を達成したものの、患者数は減らず、ほぼ横ばい状態。ハンセン病にかかっていることを自覚していない“隠れた”患者も多いと言われています。実際、新規患者の発見活動に同行した村では、わずか1時間半の間に3人もの患者が発見されました。

インドネシアでは今でも多くの島々で、差別や偏見が色濃く残っています。たとえ病気が完治したとしても、学校や職場に戻れなかったり、家族と離れて暮らすことを余儀なくされたりする人が少なくないのです。「ハンセン病患者・回復者」というスティグマ（負の烙印）を押され、その後の人生を生きていかなければならない。これが島国インドネシアの“現実”です。」

表. 世界のハンセン病新規患者数, 2016年 (1,000人以上, WHO)

国名	新患数	国名	新患数
インド	135,485	ミャンマー	2,609
ブラジル	25,218	タンザニア	2,047
インドネシア	16,826	マダガスカル	1,780
コンゴ民主共和国	3,765	フィリピン	1,721
エチオピア	3,692	ナイジェリア	1,362
ネパール	3,054	モザンビーク	1,289
バングラデシュ	3,000	世界合計	214,783

スリランカ: データなし (2015年は1,977人)



🌸 インドネシアキャンプとは

インドネシアキャンプとは、インドネシアのハンセン病快復コロニーで行うワークキャンプです。ハンセン病快復コロニーを訪れ、現地が掲げる問題を明確化し、解決することを目的としています。2010年にインドネシアの学生団体である LCC Indonesia (Leprosy Care Community) と FIWC 東海委員会が活動を始め、現在 Nganget (ナンガット) 村、Donorojo (ドノロジョ) 村、Sumbleglagah (スンプルグラガ) 村の3か所で毎年ワークキャンプが行われています。そして、今年度からは FIWC 九州もインドネシアキャンプを開始しました！！



🌸 キャンプってどんなことするの？

主に3つの活動を行います。



Home Visit

現地に行って、直接村人たちにハンセン病についてのお話を聞いたり、村人と一緒に生活したりします。



Work Project

村人たちに笑顔をお届けたいという想いで作り上げる活動です。インフラ整備などを行います。



Research

まだ踏み入った事のない村に実際に行き村の情報を収集し、今後ワークキャンプが出来る村を探します。

🌸 どうやってコミュニケーションをとるのか？

インドネシアの村人はインドネシア語、もしくはジャワ語しか話せません。そこで現地のコーディネーター高島雄太さん、現地の学生 Adin さんの協力のもと英語をインドネシア語に訳してもらいます。しかし、高度な英語の技術はいりません。ジェスチャーで気持ちを伝える事も出来ますし、キャンプ前に行われるミーティングでは簡単なインドネシア語講座もありました！皆で少しずつ覚えていきます。



🌸 キャンプ中の生活は？

事前にミーティングで決めたキャンプスケジュールを元に活動します。家事はシフトを決めて皆で分担して行います。夜は村人の家に遊びに行ったり、疲れている人は寝たりと自由活動です😊

一日のスケジュール (予定)



エビカニクスを踊ろう!!



ご飯は自分たちで作ります!
詳細は30ページ!!



朝 MTG は Research 方法や目的の確認
夜 MTG は Research 結果の報告と情報共有

Mandi は水浴びのこと!



🌸 Research Camp 2020 とは

2019年の夏に FIWC 九州メンバー3人が FIWC 東海メンバーと合同でキャンプを行い、今年度からは FIWC 九州単独でインドネシアキャンプを行うことになりました。その経緯としては、2019年の夏のキャンプ後に、“**インドネシアキャンプを FIWC 九州でも始めて、夏に訪れた村のような、村人が笑顔の村を一つでも増やしたい**”という FIWC 九州の想いと、“**インドネシアキャンプを始めてから 10年経つということもあり、新たな島や村を開拓したい**”という現地団体 JALAN の想いが一致して、FIWC 九州のインドネシアキャンプが発足しました。

そして第一回目の 2020 年春キャンプでは、FIWC 九州が今後インドネシアでキャンプを行っていくにあたり、キャンプ地を決める Research Camp を行う予定でした。



🌸 FIWC 九州単独でキャンプを行うメリット

① “お客様キャンプ”・“おもてなしキャンプ”をなくすことができる。

従来のインドネシアキャンプは LCC メンバー（インドネシア人キャンパー）が Research Camp を行っていたため、日本人がキャンプの内容をイメージすることが難しかった。しかし、FIWC 九州のメンバーが Research Camp から関わることで、キャンプについて同じ情報量、当事者意識をもってキャンプに挑むことができる。

② 単独で行うことで MTG を行いやすい。

合同で行った昨年の夏キャンプの際、MTG が円滑に進まないことがあった。

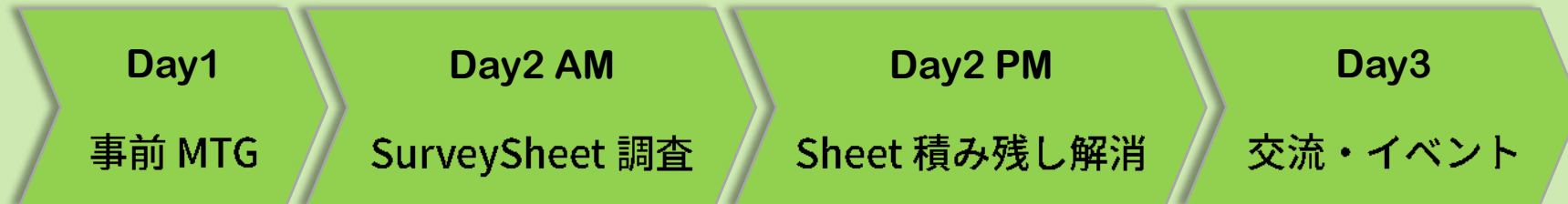
③ キャンプに参加する人数が多い。

学生の人数が多く、パワーがある。FIWC 九州は既にフィリピンキャンプで Research Camp を行っている。そのためキャンプの幅が広がる。

🌸 Research Camp の流れ

2020 年春の Research Camp では 2 つの島、4 つの村を訪問する予定でした。昨年夏訪れた Donorojo 村は Visit(9 頁参照)を、残りの Wireskat 村、Larringi 村、Totinco 村で Research を行う予定でした。各村 3 日間の調査時間を設けました。

Research のスケジュール (予定)



Day1: 村に昼か夕方に到着。到着次第、コアキャンパー（下記参照）・GL・高島さん、現地団体協力者で翌日以降の Research 方法の MTG。その日の夜の MTG で GL が情報共有。

Day2: 朝の MTG で調べる地域、内容等をコアキャンパー中心に MTG。午前中の Research では Survey Sheet に書き込みながら Research を行う。午後の Research は Survey Sheet の残りを埋める。夜の MTG で全員で Research の結果報告、情報共有を行う。

Day3: 仲良くなった村の方々と交流を行う。Camper Challenge Cup で企画したイベントの実施。

帰国後、村ごとに下見報告書（Research Report・右図）の作成。夏以降のキャンプでどのようなプロジェクトを行っていくのか検討する。

コアメンバー制

「13 人全員で全ての村の Research を行い、全員で Research Report を作る」のではなく、「13 人全員で全ての村の Research を行うが、Research Report は担当（コアキャンパー）を決めて作成する」という仕組み。



🌸 調査地の情報

ジャワ島



🌸 Donorojo (ドノロジョ) 村【2020/02/27～29】

コロニーの概要

LCC Indonesia と FIWC 東海委員会が毎年ワークキャンプを行っている村です。あみとかいせーが夏にキャンプを行ったため、今キャンプでも訪問する予定でした。

Donorojo 村は、インドネシア共和国ジャワ島中部ジャワ州ジュバラ県にあるハンセン病快復コロニーです。ハンセン病快復者とその家族、約 800 人が生活しています。過去にハンセン病を患った方々の多くが足や手などに後遺症を抱えていますが、お互いに助け合い元気に暮らしています。

ドノロジョ村のコロニーは、Liposos (リボソス)、Kalisemut (カリズム)、Sumble Teru (スンプルテル) の 3 つに分かれており、Liposos は政府の援助がある地域、Kalisemut と Sumble Teru は土地のみが与えられる地域といった援助の差があります。



また、ドノロジョ村には大きな病院（中央図）があり、ハンセン病の治療を行うだけでなく、快復者が生活する寮もあります。

今回の滞在では、Camper Challenge Cup の日本食企画（焼きそば・味噌汁）や焼きそばとミーゴレンとの食べ比べ、アートプロジェクトなどを予定していました。

村のみんなに会いたい。夏は行けますように...!



🌸 Wireskat (ウィレスカット) 村【2020/03/01~03】

* 情報は現地団体 JALAN のもの（下見日時：2019年9月22日~23日）

基本情報

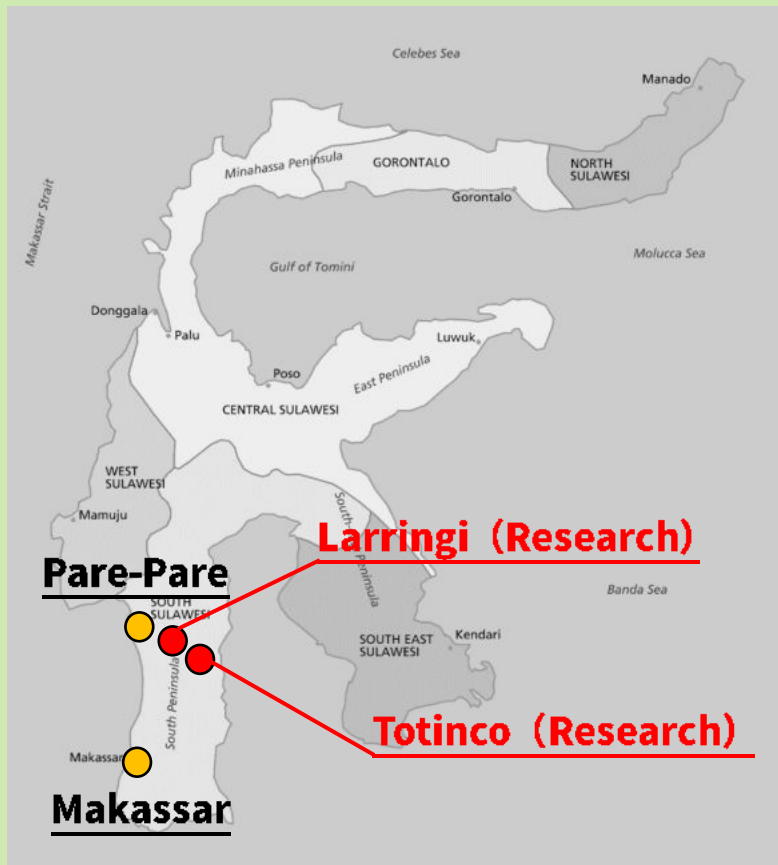
名前	Wireskat (Wisma Rehabilitasi Sosial Katolik の略)
住民	<ul style="list-style-type: none"> ・快復者数は18人。訪問時、内3人は Donorojo ハンセン病病院に現在入院中。 ・10年ほど前は約30人の村人がいたが、年々減っている。村人が高齢で亡くなっていく、若い人が村をでていく、新しく入ってくる人がいないため（Wireskat に住む村人の内、一番若い村人は1985年生まれ）。
管轄権	<p>教会が管理。</p> <p>（Blora 市内の St. Pius X 教会、組織的な運営管理は東ジャワ州 Surabaya 市の教会、神父の個人資金により運営されている）</p>
医療状況	病院への移動、治療費は教会が負担している。
支援状況	<ul style="list-style-type: none"> ・1日3食支給、1月に1人あたり10kgの米と現金150,000ルピア（日本円で1000円くらい）が支給される。 ・砂糖、油などの配給は月に1~3回ほど。配給の回数や量はドナーの数による。 ・子供がいる場合、学費も教会から支払われるが生活費などその他の費用は自己負担となる。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・Wireskat の村に住んでいる場合、仕事を持つことはできない。外で仕事をする場合は村を出ていかなければならない。Wireskat の所有地として田畑があるが、快復者が高齢のため働く人はいない。昔は家具作りなどの職業訓練も行っていたが、

若い村人がいないため現在は実施していない。

- 村人はカトリックとイスラムが半々ほど。
- 一日の作業は朝5時頃から行われる村内清掃のみ。
- 周囲に民家はなく、Wireshkatを訪れるのはキリスト教徒のみ。
マリア像があり、礼拝に訪れる。訪問した日の夕方も75人の訪問客があった。
- Blora全体（中心部を除く）が乾燥した土地。乾季になると水が出なくなる。
水は水道局から引いている。
- 水が出なくなった場合、5000リットル入りの水タンクを購入する。
- 村人の住居はレンガ作り、長屋状の一般的なもの。内部は未確認。



スラウェシ島



今回のキャンプでは村を開拓するだけではなく、新たな島を開拓する予定でした。従来のインドネシアキャンプはジャワ島内のコロニーでの活動でしたが、2020年春キャンプからスラウェシ島という新たな島の調査も行う予定でした。

インドネシアの約60個のコロニーのうち、9個がスラウェシ島に存在しており、島全体で見ると、ハンセン病が未制圧の状態です。（制圧：人口1万人あたりの患者数が1人以下）


また、ブギス語という言葉が使われており、言語も文化もジャワ島とは全く異なります。


🌸 Larringgi (ラリング) 村【2020/03/05～07】


* 情報は現地団体 JALAN のもの（下見日時：2019年12月16日）

基本情報

名前	Larringgi
住民	46 家族。ハンセン病快復者は 20 人。
管轄権	土地の所有は地方政府。
医療状況	<ul style="list-style-type: none">・コロニー内に病院、保健センターは無い。3km 離れた場所に保健センターあり。・80 年代にはハンセン病病院があったが、現在は廃院。
支援状況	<ul style="list-style-type: none">・KPD（セルフケアグループ）あり。毎月 12 日に傷口のケア、幼児・老人の健康診断が行われる。・半年に一度社会局からの支援物資あり。・本来、地区から米の支援があるが、後回しにされることが多く、Larringgi の村人は米の支給を得られていない。・70～80 年代の移住時、政府は生活の補償を約束したが、数年で支援はなくなった。元の場所に帰った村人も多い。・PKH（家族への支援物資）があるが、乳児、妊婦、学校に通う子供、老人がいる家庭のみに支給される。
その他	<ul style="list-style-type: none">・土地を開墾して田や畑として利用することが許されたが、高齢の快復者は土地をもらえなかった（働けないため）。・村人のほとんどがレンガ造りで生計を立てている。子供も学校から帰るとレンガ造りを手伝う。・レンガ造りで得られる給料、1 個 130 ルピア。焼き上げ後の積み出しは 1,000 個で 10,000 ルピア。・以前よりは良くなったが、まだ差別は残っていると話す。・使用していない家屋を宿泊場所として使用可能。








🌸 Totinco (トティンチョ) 村【2020/03/08~10】

＊ 情報は現地団体 JALAN のもの（下見日時：2019 年 12 月 17 日）

基本情報

名前	Totinco
住民	93 家族、70 家屋。約 290 人が暮らす。20 歳以上の人 は 184 人。うち 快復者は 38 人。
管轄権	社会局管轄。
医療状況	<ul style="list-style-type: none">・月に 1 度、全村人対象の健康診断が行われる。・コロニーから 1 時間ほどの距離に Amassangeng 病院がある。・以前は Amassangeng 病院脇にコロニーがあったが、1985 年に現在の場所に移転。・保健センターや病院へは距離があり、通うことが困難。病院側のハンセン病についての知識も不足している。・KIS（保健カード）を持っていない人が多く、病院にかかることが困難。
その他	<ul style="list-style-type: none">・90%の村人はレンガ造りで生計をたてている。その他に仕事がない。物乞いも数名いる。 

🌸 夏キャンプ報告会からキャンパー募集まで

2019年夏キャンプ報告会 2019年10月5日(土) 14:00~ @西南学院大学



2020年春キャンプ説明会 2019年11月6日(水) 16:00~ @九州大学

// 20日(水) 16:00~ @西南学院大学



キャンパーメ切 2019年11月26日(火) 23:59

13人の素敵なメンバーたちが集まりました！！ みんなよろしくね！！

🌸 国内 MTG・イベント

第 1 回キャンプ MTG 2019年12月2日(月) 19:00~ @カルティエイト博多

【内容】

自己紹介、インドネシアキャンプについて(詳細は5頁参照)、MTGの注意事項、MTG日程の調整など今後の準備、安全管理について、インドネシア語講座①、宿題(FIメーリス登録)

【なつきのひとこと🌟】

キャンパーと初めての顔合わせ。どんな人たちが集まっているのだろうか、ワクワクしながら集合場所に向かい、扉を開けたことを懐かしく思います。この時はまだ、いつキャンプに行くのか、行って何をするのかさえも決まっていない状況で、本当に0から作り上げていくのだなぁと驚きました。

訪問する村では英語が通じないので、現地で使える便利なインドネシア語を毎回のMTGで5つから9つ教えてもらいます。会議に来れなかったキャンパーは、ビデオ通話で参加し、いい雰囲気です。初回 MTG は終了しました。

第 2 回キャンプ MTG 2019年12月10日(火) 19:30~ @びおと一歩

【内容】

宿題チェック、FIWCの歴史、ハンセン病とワークキャンプについて(詳細は3・4頁参照)、保険加入と予防接種について、危機管理向上ワークショップ、宿題(予防接種、キャンプテーマとキャンプTシャツのデザイン案)、危機管理向上WS事前課題作成)、持ち物について、インドネシア語講座②



【なつきのひとこと😊】

第2回目のMTGから、キャンプに向けての本格的な準備が始まりました。ハンセン病について知らないキャンパーも多いため、初めにハンセン病についての説明がありました。さらに、村でのワークについてや保険加入、予防接種、緊急時に備えるための”危機管理向上ワークショップ”など盛り沢山のミーティングでした。

毎回のMTGで宿題が出されるのですが、この日は特に量が多く、締め切りも近かったので大変でした（ー；）



第3回キャンプMTG 2019年12月21日（土）10：00～ @びおとーぶ

【内容】

宿題チェック、係決め、キャンプテーマ、キャンプTシャツデザイン決め（右写真）、キャンプの候補地について、持ち物について、保険カードについて、Camper Challenge Cup 2020について（詳細は25頁参照）、インドネシア語講座③、宿題（予防接種）、インネシメンバークリスマスマーケット！！

【なつきのひとこと😬】

キャンプテーマは、キャンパー全員が同じ志を持って、キャンプに取り組むために必要不可欠なものです。キャンパー全員が1人1つずつ案を出し、その中から決めていきます。議論の結果、今年のテーマは「咲」になりました。

また、Tシャツデザインもキャンパー全員が考え、その中から1つ選ばれます。今年のTシャツデザインは、「咲」というテーマに合うように、花のイラストを添え、インドネシアの伝統模様であるバティックが描かれています。とっても綺麗で素敵なデザインだと思いますか？個人的にとっても気に入っています！！ありさとしほさんデザインありがとう、そしてお疲れさま（^^*）



第4回キャンプMTG 2020年1月9日(木) 19:00~ @びおとーぶ

【内容】

宿題チェック、係決め、航空券について、航空券以外のキャンプ費、インドネシアでの衣食住について、Camper Challenge Cup 2020①、危機管理向上 WS の復習、宿題 (Camper Challenge Cup 2020 の準備、航空券獲得)、インドネシア語講座③、まきあゆハッピーバースデー!!、インネシ飲み会!! @境田家

【なつきのひとこと😊】

第4回目の MTG では、「Camper Challenge Cup 2020」が行われました。Camper Challenge Cup 2020とは、キャンパーがインドネシアでチャレンジしたいことを考え、発表し、その中から実際に村で行うイベントを考えよう!というプレゼン大会です。プレゼンの仕方は自由で、パワーポイントを使ったり、口頭で発表したり、紙に絵を描いて発表したりと、キャンパーの個性が出ていて面白かったです (^ ^ *)

この日から航空券の準備も始まり、キャンプまで残り1ヶ月半になりました。準備期間は短いですが、みんなで協力して進めていくので心配はいりません!!分からないことがあったら、すぐに質問できるような雰囲気です。MTGは進んでいきます。

第5回キャンプMTG 2020年1月17日(金) 19:00~ @びおとーぶ

【内容】

フライト確認、キャンプスケジュール決め、係決め、保険加入と渡航届けについて、リサーチシート、Camper Challenge Cup 2020②、宿題 (交通費収集、渡航届提出、保健カード提出)、インドネシア語講座⑤、かなとおでん事件



【なつきのひとこと😊】

インドネシア語講座も今日で5回目、この日は「魔法の言葉」を習いました。この言葉さえ覚えていれば、とりあえず村で生きていけるらしいです（笑）

その言葉とは、Mau(マウ)：「～したい」です。例えば、何か食べたいなあと思ったとき、食べたいものをさして”Mau!”と叫べば、食べれる（笑）

このように何かしたいことがあれば、それに指をさして”Mau!”と言えば大体のことはできます。私は実際に使うことができませんでしたが、インドネシアに行く機会がある人は、是非現地で使ってみてください（^^*）



FIWC 九州委員会国内合宿 2020年1月18日（土）13：00～ @博多仕事基地

第6回キャンプMTG 2020年1月20日（月）19：00～ @びおとーぶ

【内容】

宿題のチェック、持ち物と予防接種の確認、イベント決め、係の仕事進捗確認、宿題（海外渡航届け提出、保険加入）、インドネシア語講座⑥、ありさハッピーバースデー！！



【なつきのひとこと😊】

Camper Challenge Cup 2020 が終わり、この日は皆が考えた企画のまとめ作業をしました。

3つのグループに分かれ、村で実現可能なイベントは何か、場所や必要な道具、イベント当日の大まかな流れなどをグループで企画し発表しました。個人的には、日本食を村人たちと一緒に作りたかったあとと思っています。どのグループも村人のことを想って、企画を考えていました。詳細は27頁に載せています。次回の参考にしてくれたら嬉しいです（*^^*）



第7回キャンプMTG 2020年2月11日(火) 18:00~ @びおとーぷ

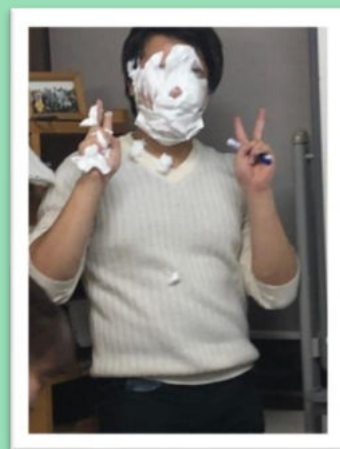
【内容】

宿題チェック、イベントについて、当日初日のスケジュール確認、リサーチキャンプについて、コロナウイルスについて、宿題（保険カード、お金の準備）、インドネシア語講座⑦、あみ・かおり・さゆりんハッピーバースデー！！

【なつきのひとこと☺️】

「リサーチキャンプ」とは、村を調査するキャンプ、つまり下見キャンプのことです。今回のキャンプの要になります。この日はResearch Camp 必要な「Survey Sheet」の確認をしました。「Survey Sheet」とは、実際に村に行ったときに「何を見て」「何を聞くのか」を書き記した調査表のことです。今回は3つの村を訪問する予定だったので、各村で比較ができるように、調査内容を統一した方がいいだろうということで作成しました（*^^*）

次回で国内MTGも最後ですΣ(°Д°;) 対お!?。なんと、最終MTGではインドネシア語の確認テストが行われます！！ヒュー！！



第8回キャンプMTG・決起会 2020年2月17日(月) 18:00~ @びおとーぶ

【内容】

《第8回キャンプMTG》

宿題チェック、係の仕事確認、持ち物の最終確認、フライトと事後MTGの最終確認、その他連絡事項、最後に、インドネシア語テスト

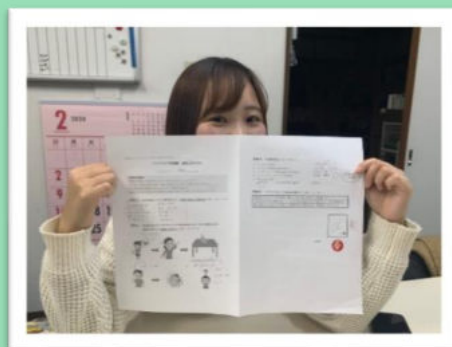
《決起会》

プリクラとろうぜ!、イベントリハーサル、餃子焼きそばパーティー

【なつきのひとこと😊】

月に2、3回のMTGも最後になり、9日後には出発していると考えたら、ワクワクとドキドキが止まりません!!この日は係の仕事や持ち物、スケジュールなどの確認作業が行われました。最後のMTGということで、MTG終了後はみんなで餃子と焼きそばを作ってワイワイ楽しみました(*^^*)

ご飯を食べた後のインドネシア語テストでは、インドネシア語以外の問題も出て、超絶焦りました(°д°)ナジヤコリヤ!!カヒ-コルサカナ(´へ´#)!結果は13人中2人が満点でした!おめでとう私(笑)!!そしてあみ!(さすがリーダー~)。キャンプまで残り9日、キャンパー全員が胸に期待を抱き、国内でのMTGが終了しました。



第1回緊急 MTG 2020年2月20日（木）0：15～ @オンライン

第2回緊急 MTG 2020年2月24日（月）1：00～ @オンライン

【内容】

コロナウイルス、キャンプの実施について

第1回事後 MTG 2020年2月26日（水）10：00～ @びおとーぶ

【内容】

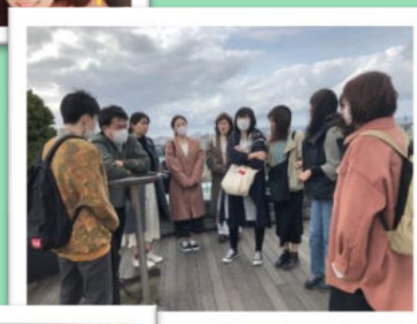
今後の活動について、費用の返金、報告書作成について、メンバーカード、さあどこへ遊びに行こうか！！、プリクラリベンジ

【なつきのひとこと🥰】

最終 MTG から9日後...まさか福岡にいるなんて、最終 MTG の私は思ってもいませんでした。

2月20日に福岡県でコロナが発生、その日の夜にキャンパー全員で、キャンプを実行した際に起こりうるリスク等を話し合いました。その数日後、2度目の会議を開き、再度話し合いを行った結果、断腸の思いで2020年春のインドネシアキャンプを中止にすることを決めました。苦渋の決断をしたリーダーのあみに心からの感謝を申し上げます。

第1回目の事後 MTG では、インドネシアキャンプ2020年春の「これから」について考えました。今後は報告書の作成がメインになります。どんな報告書ができあがるのか楽しみです！



報告書集中作業日 2020年3月5日(木) 12:00~ @森家



インドネシアドライブ!! 2020年3月9日(月) 10:00~ @九州自然動物公園アフリカンサファリなど



🌸 インドネシア現地日程（予定）

日	月	火	水	木	金	土
2/23	24	25	26 福岡発！ 移動日①	27 移動日② Visit① in Donorojo 村	28	29
3/1 移動日③	2	3	4 移動日④ Research② in Wireskat 村	5 移動日⑤ Research③ in Larringi 村	6	7
8 移動日⑥ Research④ in Totinco 村	9	10	11 移動日⑦ 観光？	12 移動日⑧	13 福岡着！	14

移動の詳細

移動日① 2月26日（水）8：30 福岡空港（FUK）発 → 14：05 クアラルンプール国際空港（KUL）着
18：10 クアラルンプール国際空港（KUL）発 → 19：20 スカルノ・ハッタ国際空港（CGK）着
そのままホテル泊

移動日② 2月27日（水）8：25 Pasar Senen 駅発 → 15：07 Semarang 駅着
Semarang で日用品の買い物、そのままバスチャーターで Donorojo 村へ

🌸 Event Leader (EL) : しんや・ましろ・ありさ (だいちゃん・かいせい)

どんな仕事をするの??

イベントリーダーの仕事は、主に「現地で行うイベントの準備、企画、運営・進行」です。今年度春のインドネシアキャンプでは、Camper Challenge Cupという新たな取り組みを行いました。

- ① 企画 : Camper Challenge Cup でみんながプレゼンテーションした企画、MTG のワークショップで考えた企画をさらに詰めていきます。
- ② 準備 : 現地で行うイベントに必要なものを用意します。日本で買っていかねばならないものもあるのでかなり重要なお仕事です。
- ③ 運営・進行 : 現地で行うイベントの宣伝・司会などを行います。

Camper Challenge Cup とは??

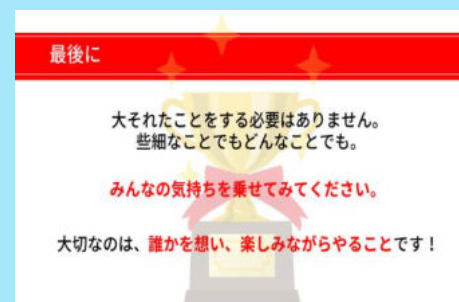
みんなの「これやりたい!」を叶え、実現していく企画です。

FIWC 九州インドネシアキャンプは今回が第1回。はじめてのキャンプだからこそキャンパー全員のやってみたいことを実現できるキャンプでもあります。そこで、キャンパー全員で「どんなことをしたら“大切なあなた”が喜んでくれるのか」考えてみました。

Camper Challenge Cup の流れ

Presentation

… キャンパー全員が「キャンプでやりたい!」企画をプレゼンテーション! 持ち時間は一人3分。それぞれが斬新なアイデアを出してくれました。



【みんなが考えてくれた企画】

インドネシアのお菓子作り、アートプロジェクト、憩いの場づくり、足跡を残す、ペットボトルで和雑貨作り、インドネシア料理、日本食、浴衣、言語講座、てるてる坊主、ミサンガ作り、チェキ、掃除、習字、茶話会、縁日、パーティー など.....

Workshop

… プレゼン企画をもとにどの企画をどの村で行うことができるかチームに分かれて議論しました。



ELMTG

… Event Leader でさらに具体的な企画を考えました。

Rehearsal

… 決起会でみんなでリハーサルをしました。村で作ることを想定しながら、焼きそばを作ってみたり、和雑貨を作ってみたり。楽しかったね！！



Preparation

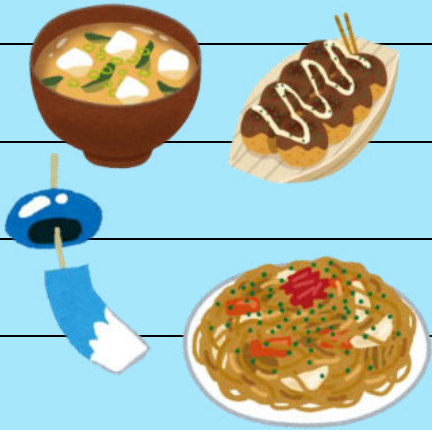
… 現地で行うイベントに向けて買い出し！EL全員でギリギリまで企画を詰めていきます。村でのイベントが成功しますようにっ！

こんな企画を考えました！

今回のキャンプでは、滞在する4つの村それぞれで行う企画を考えました。

開催地	場所	企画内容
Donorojo 村	広場	日本食をふるまう（焼きそば・味噌汁）、ミーゴレンとの食べ比べ、アートプロジェクト
Wireskat 村	各家	風鈴作り、造花、アートプロジェクト、100均便利グッズクイズ大会
Sulawesi 島	各家	みんなで駄菓子を食べよう、風鈴作り、アートプロジェクト、たこ焼きつくろう

イベントの準備物

焼きそば	焼きそば粉末ソース（Amazon）、具材、焼きそば麺（現地調達）	
味噌汁	インスタントわかめ味噌汁（Amazon）	
アートプロジェクト	墨、筆、絵の具、チェキ、フィルム（メンバーから集める）布	
100均便利グッズクイズなど	100均グッズ、お菓子（100均）	
造花	針金、フェルト、マスキングテープ（100均）	
風鈴	プラスチックのコップ、すず、ひも、紙（100均）、ペン（メンバーから集める）	

イベント開催における注意事項

- ・雨季問題：春のインドネシアは雨季。雨でもイベントを行える場所を確保しておく
- ・宗教の問題：村によって宗教が異なる。日本食などを作る際に原材料まで確認したうえで振る舞わなくてはならない。
- ・新しい村：イベントまでにどれだけ村の方々と関係を構築できるか。そして、イベントでより関係を深められるか。イベントを行う場所の確保等。

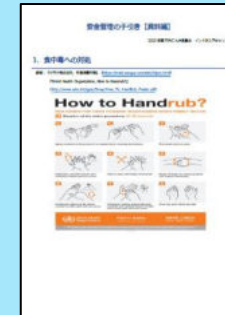
🌸 Security Police (SP)：だいちゃん・あゆか（あみ・かいせー）

どんな仕事をするの??

出国前は、保健バックの補充、内容物リストの作成、「インドネシアキャンプ版安全管理の手引き」の作成・更新。現地では、キャンパーの体調確認、保健バックの携帯・管理、応急処置、緊急時対応（原則「安全の手引き」に従う）を行います。キャンパー全員の安全を守ってくれる係です。

インドネシアキャンプ版安全管理の手引き

今年度はFIWC九州初のインドネシアキャンプだったため、インドネシアキャンプ版安全管理の手引きを作成しました。フィリピンキャンプやチャイナキャンプの手引きを参考に、インドネシアの病気に対応した冊子（右図）、そして応急措置の方法等を記載した資料編（中央図）、コロナウイルスの手引き（左図）も作成しました。



危機管理意識向上WS（2019年12月19日@びお）

2019年12月19日（木）に危機管理意識向上ワークショップを行いました。事前課題とロールプレイングを行い、現地で何かトラブルが起きた際に、安全管理の手引きの内容をもとに適切な対応をとることができるか、そしてその対応をキャンパー全員がとれるかを確認しました。

まきあゆのSPクイズ（第7回MTG）

安全管理の手引きの内容からクイズを行い、現地で気を付けることを再確認しました。

保健バッグ内容物リスト

名称	種別	個数	名称	種別	個数
正露丸	胃腸薬	100錠	オロナイン軟膏	外傷治療薬	11g
押すだけノーマット	蚊駆除	1	熱さまシート		16枚
ピンセット		1	包帯		4m
体温計		1	サージカルテープ		5m
パブロン	かぜ薬	210錠 (1箱)	バファリン	頭痛薬	40錠
第1三共胃腸薬	胃腸薬	50錠	絆創膏		72枚
マキロン	殺菌消毒薬	75mL	アルコールティッシュ	消毒	120枚
ガーゼ		8枚	経口補水液		10袋
かゆみとバイバイ	かゆみ止め	200mL	石鹸		3
ムヒの虫よけ		200mL	エチケット袋		1
ムヒ		50mL	はさみ		1
綿棒		100本	マスク		60枚

🌸 Recording Leader (RL) : あみ・さゆりん・かなと

どんな仕事をするの??

現地で報告書に使用する写真の作成、報告会のための動画作成を行います。

かなとの動画作成

事後 MTG の際に、作った動画の鑑賞会を行いました。
素敵な動画をありがとう。感動した。キャンプ行きたかったな!!! (´ω;`)



🌸 Kitchen Police (KP) : かいせー・なつき・みほ

どんな仕事をするの??

出国前は料理・洗濯（チュチ）・交換日記のシフト作成（右図参照）、現地では食材管理・献立作成・備品管理・大きな声で「いただきます！ごちそうさま！」のあいさつをします。

- ・食材の管理・献立作成：現地では2～3日に一度買い出しを行う。その食材でキャンパーの献立を考える。
- ・備品の管理：ガスやコンロなどの調理器具、カトラリー類、洗濯用品（洗剤・桶・ハンガー等）、遊び道具（ボール）などの管理

インドネシアのごはんってどんな感じ??

こんな感じ。めっちゃおいしい。有名なのはミーゴレン、ナシゴレン、テンペ、バクソ！



日付	場所	CUCIメンバー	番組み
移動日のため洗濯なし!!			
2/20 (水)			
2/21 (木)	Donorjo①	しほっぺ・さゆりん・かなと・なつき	まゆり・かおり・みほ
2/22 (金)	Donorjo②	ましろ・たいちゃん・しんや・みほ	さゆりん・かなと
2/23 (土)	Donorjo③	まゆり・かおり・あゆか・かいせー	たいちゃん・ましろ
2/24 (日)	Weekat①	あめ・なつき・しほっぺ	あゆか・みほ
2/25 (月)	Weekat②	まゆり・かおり・ましろ	かいせー・なつき
2/26 (火)	Weekat③	みほ・かいせー・かなと	しんや・しほっぺ
移動日のため洗濯なし!!			
2/27 (水)	Larangi①	まゆり・しんや・あゆか	まゆり・かおり・みほ
2/28 (木)	Larangi②	かいせー・あめ・さゆりん	しんや・なつき
2/29 (金)	Larangi③	みほ・たいちゃん・かおり	あゆか・まゆり
2/30 (土)	Talisco①	あゆか・たいちゃん・なつき	あめ・しほっぺ
3/1 (日)	Talisco②	さゆりん・しほっぺ・かなと	かいせー・ましろ
3/2 (月)	Talisco③	ましろ・あめ・しんや	たいちゃん・さゆりん
3/3 (火)			
3/4 (水)			
移動日のため洗濯なし!!			

🌸 Accounting Leader (AL) : しほっぺ・かおり

どんな仕事をするの??

キャンプ中のお金の管理。事前に徴収した生活費（25,000円/人）を使って交通費やホテル代、食費等のやりくりを行う係です。会計ノートに管理していきます。



会計報告概要

事前に航空券代 50,000 円を集め、余った分は国内活動費としました。さらに、村での生活費や移動費 15,000 円、個人費 10,000 円も事前に徴収し、現地で換金して配る予定でした。航空券代は事前に払い、払い戻しはありませんでした。生活費と移動費の計 25,000 円はキャンパーに返金しました。

航空券

福岡空港 →→→ ジャカルタ・スカルノハッタ国際空港	18,623 円
スラバヤ・ジュアンダ国際空港 →→→ マカッサル・ハサヌディン国際空港	6,238 円
マカッサル・ハサヌディン国際空港 →→→ ジャカルタ・スカルノハッタ国際空港	7,910 円
ジャカルタ・スカルノハッタ国際空港 →→→ 福岡空港	15,900 円
計	48,672 円

1人あたり 48672 円でしたが、1人 50000 円回収し、全体で使える費用として $(50000 - 48672) \times 13 = 17,264$ 円を国内活動費に充てました。

国内活動費

イベント準備費	3,410 円
引継ぎ用 USB 代	780 円
会計ノート代	220 円
会計ファイル代	440 円
印刷代	450 円
計	5,300 円

航空券代の残り $17264 - 5300 = 11,964$ 円

現地での移動費やホテル代などの一部はキャンセル料が発生したため、航空券代の残りはその費用に充てる予定です。

国内その他経費

Tシャツ代	3,200 円
保健代	約 9,000 円

現地の活動費（予定）

個人にかかる費用				
予定日	項目	内訳	ルピア	円
26-Feb	交通費	Soekarno-Hatta 国際空港—ホテル	60,000	600
27-Feb	交通費	ホテル—Pasar Senen 駅		
27-Feb	交通費	Pasar Senen 駅—Semarang Tawang 駅	107,000	1,070
1-Mar	交通費	Semarang Poncol 駅—Cepu 駅	47,000	470
4-Mar	交通費	Cepu 駅—Surabaya Pasar Turi 駅	77,000	770
5-Mar	交通費	Makassar 市—Parepare 市	40,000	400
	食費	14 日分 (21,000Rp/日)	294,000	2,940
計			625,000	6,250

全体にかかる費用							
予定日	項目	内訳	単価	数量	単位	ルピア	円
26-Feb	宿泊費	ジャカルタホテル宿泊	154,528	8	部屋	1,236,224	12,362
27-Feb	交通費	Semarang Tawan 駅—Donorojo 村	1,300,000	1	台	1,300,000	13,000
1-Mar	交通費	Donorojo 村—Semarang Poncol 駅	1,300,000	1	台	1,300,000	13,000
1-Mar	交通費	Cepu 駅—Wireskat 村	50,000	3	台	150,000	1,500
4-Mar	交通費	Wireskat 村—Cepu 駅	50,000	3	台	150,000	1,500
4-Mar	交通費	Surabaya Pasar Turi 駅— Juanda 国際空港	100,000	3	台	300,000	3,000
4-Mar	交通費	Makassar 空港—ホテル	50,000	3	台	150,000	1,500
4-Mar	宿泊費	マカッサルホテル宿泊	110,637	7	部屋	774,459	7,745
5-Mar	交通費	Parepare 市—Laringgi 村	300,000	2	台	600,000	6,000
8-Mar	交通費	Laringgi 村—Totinco 村	300,000	2	台	600,000	6,000
11-Mar	交通費	Totinco 村—Makassar 市	1,000,000	2	台	2,000,000	20,000
11-Mar	宿泊費	マカッサルホテル宿泊	135,785	7	部屋	950,495	9,505
12-Mar	交通費	ホテル—Makassar 空港	50,000	3	台	150,000	1,500
計						9,661,178	96,612
1人当たり (15人)						644,079	6,441

インドネシアキャンプに集まった 13 人の個性豊かなメンバーたち。一人ひとり質問形式で他己紹介します。

【質問内容】

- Q1 名前は？ニックネームは？
- Q2 第一印象は？
- Q3 MTGを終えて、今の印象は？
- Q4 インネシキャンプではどんなキャラクター？
- Q5 キャンプ行ってたらどんな活躍してただろう？
- Q6 将来どんな人になってそう？
- Q7 最後に一言！



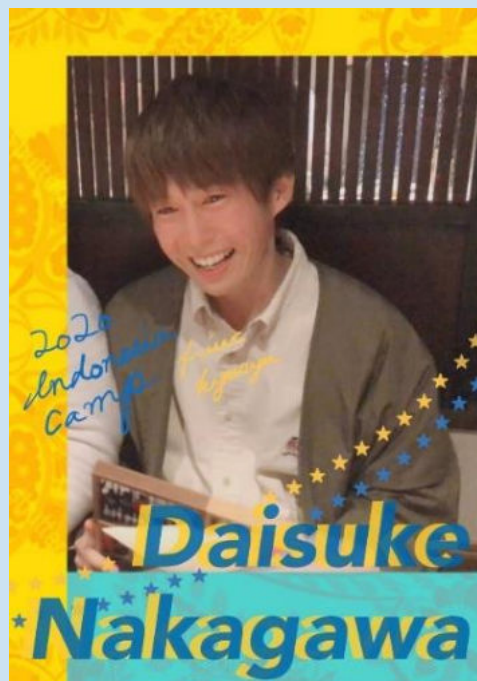
- Q1 久保山亜美・あみ、あみごれん
- Q2 オシャレな方
- Q3 責任感が強く、またみんなと平等に接するやさしい方
- Q4 輪の中心でみんなを笑顔にしてくれる
- Q5 今まで通りみんなをどんどん引っ張って行ってインドネシアキャンプを大成功、村の人はもちろん私たちキャンパーもみんなが満足するキャンプにしてくれたた！
- Q6 自分のブランド開発してそう！
- Q7 インドネシアキャンプでリーダーとしてみんなを引っ張っているあみちゃん、本当にかっこいいと思っています！これからも一緒に授業とかでたくさんお世話になります！よろしく！！
(from まっしー)

- Q1 久保海晴・かいせい、かいかい
- Q2 優しい、話しやすそう
- Q3 情熱的なひと、思いやりがある、恋多き男？(笑)
- Q4 周りを盛り上げてくれるムードメーカー、実はインネシキャンパーで1番かわいい(.....やっぱりそんなことはなかったです、ごめんなさいm(._.)m)
- Q5 みんなを色々な意味で引っ張ってくれていたと思う。
- Q6 早めに結婚して、奥さんの尻に敷かれてそう。
- Q7 今まで色々お世話になりました！かいせいさんのどんなことにも熱く取り組む姿勢を見て、いつもすごいなと思ってました。社会人になっても頑張ってください！またいつかみんなでお飲みましょう！ (from しんや)





- Q1 田中志歩・しほ、しほっぺ
- Q2 クールそうなお姉さん
- Q3 発想力豊か、優しい！
- Q4 好奇心旺盛キャラ
- Q5 ましろさんと一緒にキャンプを盛り上げてくれた
- Q6 子どもとはしゃぐ先生
- Q7 しほさんの考えにはっとさせられることがたくさんありました！いつかしほさんのたこ焼き食べたいです♪ありがとうございました！
(from あゆか)



- Q1 中川大輔・だいちゃん
- Q2 すごく頭良さそう！！
- Q3 実際頭良い！というか、知識量がすごい☆
- Q4 みんなをしっかりサポートしてくれる大黒柱的な存在
- Q5 きっとピンチの時に助けてくれるヒーローになっていたでしょう
- Q6 国を背負ってそう！
- Q7 いつもMTGをしっかり引っ張ってくれる姿を頼もしく思っていました！最後のキャンプにかける思いはきっと大きかったと思うけど、決断できたのは大ちゃんのおかげだなと思います。本当にありがとうございました！
(from ありさ)



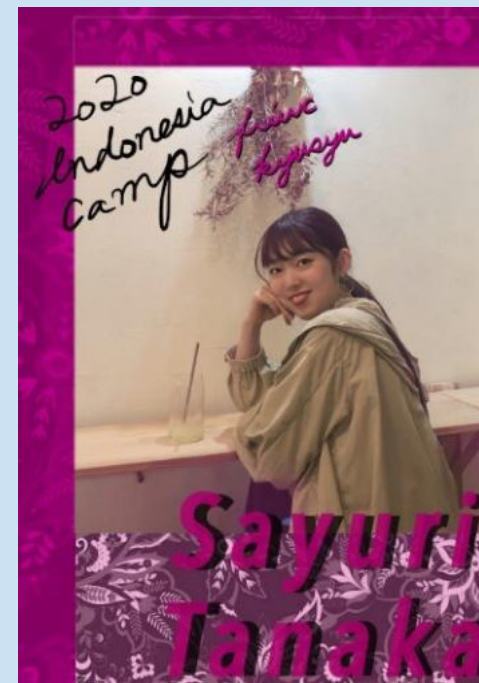
- Q1 城戸夏葵・なつき
- Q2 笑顔が素敵、明るい、元気！
- Q3 頼れる姉さん
(初っ端のFPから助けられました。笑)
- Q4 親しみやすい、ムードメーカー的存在。
- Q5 インドネシア語をマスターしてそう。
- Q6 海外に移住してキャリアウーマンになってそう。
- Q7 よくミーティング中に意見をを出していたり、ちゃんと自分の意志を持っていて凄いなと思っていました。なつきさんの明るくてハキハキしているところも好きです！沢山お世話になりました！ありがとうございました！！
(from みほ)



- Q1 喜安花央里・かおり、かおりん!?
- Q2 メイのような明るさ (笑)
- Q3 マルクル
- Q4 吉岡ハル
- Q5 カルシファーの火力で料理を...
(焦げると思うけど...)
- Q6 小松崎海とかどうでしょう!?
- Q7 ジブリ好きと伺ったので全てジブリで紹介してみました~。
クレーム等々お待ちしております (笑)。
(from かなと)



- Q1 境田伸哉・
しんや、しんちゃん、さかいだ
- Q2 クール。頭がいい。おとなしい。
- Q3 あざといおっぱい好き。
- Q4 インネシの天使【ありさ・あゆか】
と並ぶ可愛いキャラ。
- Q5 もっと殻破ってたと思うな。
村で裸で踊るくらいには。
- Q6 素敵なパパ
(ってことにしておこう)
- Q7 いつもいじってるけど、しんやの
MTGに取り組む姿勢、想い、めっちゃ頼りにしてたんやで！一緒にここまでやってこれてよかった。ありがとう！
(from かいせー)



- Q1 田中彩友里・さゆりん
- Q2 赤ちゃん
- Q3 大人になったなあ
- Q4 佐賀から来るのお疲れさま
- Q5 買ったばかりのGoProを駆使して
映える写真を撮りまくっていた
- Q6 可愛い可愛いおばちゃん
- Q7 なんだかんだ大好きやで！これから
もよろしくな！
(from しほっぺ)



- Q1 野田有紗・ありさ
- Q2 おとなしそう、やさしそう、ふわふわしてる
- Q3 社畜、ネズミの研究をした人。優しい。
- Q4 ふわっ。インネシのエンジェル。
- Q5 子供がいたら、ずっと遊んでいそう。動物がいたらさわって怒られそう。ていうか動物が寄ってきそう。
- Q6 保育士（资格的に無理だけど）子供に囲まれてニコニコしてそう。
- Q7 もっと話したかった！てか、話そうよ！共通の友達とかバイトとか、うれしかった～。ふわふわしてそうでしっかりしてるってことか、しっかりしてそうで私が話しかけても聞いてなかったりして面白かったです笑
(from かおり)



- Q1 古本真白・まっしー
- Q2 あみの友達
- Q3 ハキハキ喋る、意外と真面目でしっかりしてる、笑顔が素敵、真顔、餃子
- Q4 いじられキャラ
- Q5 遊ぶときは遊んで、やるときはやる。はじめをつけて行動できていたと思う。
- Q6 今と変わらないと思う。はじめをつけて行動できる、できる大人になっていると思う。
- Q7 素敵な留学生活を送れますように(*^^*)餃子を作って、彼の胃袋をつかんできてね(笑)
(from なつき)



- Q1 牧歩果・あゆか
- Q2 清楚系でかわいい！ずっと見てられるくらい(笑)
- Q3 第一印象と変わらず可愛くて、しっかりしてる
- Q4 みんなの癒し
- Q5 イベントで盛り上げてそう
- Q6 キャリアウーマン
- Q7 大好き！出会えてよかった～
(from さゆりん)

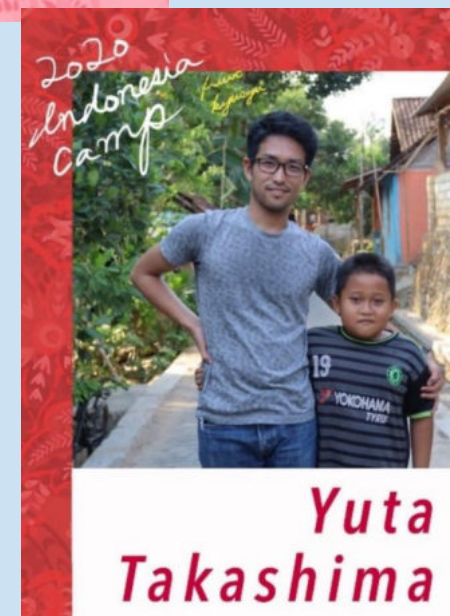


- Q1 森奏斗・かなと
 Q2 頭良さそうなイケメン
 Q3 コレはモテる
 Q4 頭キレッキレで料理上手で言葉巧みなクール系イケメン男子であるにも関わらず割と満更でもなくイジられキャラな可愛い1年生
 Q5 もこずキッチン開いてた
 Q6 年収3000万プレイヤー
 Q7 今後とも仲良くしようね(^^)飲み行こうね(^^)

(from だいちゃん)



- Q1 山本未歩・みほ
 Q2 クール系女子っぽいなあ～
 Q3 キラキラJD。
 めちゃくちゃおしゃれ。
 Q4 割と毒舌(笑)素直で頑張り屋さん！
 Q5 村人に寄り添って、村人の気持ちを理解しようと努める。みんなの健康を考えた栄養バランスを考えた料理をつくってくれる！！
 Q6 あんまり変わらなさそう！笑
 子供好きな旦那さんと結婚して、みほも子供好きになってそう笑
 Q7 キャンプに対する熱い気持ちを秘めてるみほ！その思いは十分に伝わってたよ！本当にありがとう♡みほとたくさんカフェ巡りしたいし手料理食べたいからこれからもお世話になります(^^)/
 (from あみ)



キャンパーカード編集者：なつき🌻

素敵なカードを作ってくれてありがとう😊

Ami Kuboyama

私は、2019年の夏、FIWC 東海委員会と九州委員会の合同で行ったインドネシアキャンプに参加しました。とりあえず、今度の夏暇だから参加してみよう、という軽い気持ちで応募しました。そのときはまだハンセン病について何も知らなかった。ドノロジョ村に行く、自分がイメージしていたのとは全く違う印象を受けました。「ハンセン病快復村」ときくと、マイナスなイメージを持つかもしれません。実際に私がそうでした。しかし、村人たちは明るくて、笑顔が素敵で、私たちのことを娘のように想ってくれるような、あたたかい人たちでした。そこで過ごした2週間は、かけがえのないものとなりました。こんなにもキャンプが楽しいなんて！もう一度キャンプ行きたい！と思っている自分がありました。

そしてキャンプ最終日。私は久保海晴と現地協力者の高島雄太さんと3人でこれからのことについて考えていました。「九州でインドネシアキャンプやりたいよね！」それがきっかけで始まった、このインドネシアキャンプ。何もない状態で1から作り上げるキャンプは想像以上に大変でした。悩んだことも、苦しい決断を迫られたことも、泣いたこともあって、リーダーという立場で、本当にこれでいいのか？と葛藤し、自分の不甲斐なさに

あきれられることもありました。しかし、そんなことがあってもここまでやりとげることができたのは、キャンパーの存在があったからです。キャンパーの笑顔を見ると、頑張ろう！と思えたし、みんなが村人のことを想って何ができるのかを考えている姿を見ると、自分がやりたかったことが実現してきていると実感することもできました。13人で作り上げてきたキャンプが楽しみで仕方ありませんでした。

しかし、今回のキャンプは直前で中止せざるを得なくなりました。私は、それまでキャンプが中止になるなんて考えたこともありませんでした。絶対に行きたい！村人に会いたい！という想いだけでは、どうしようもできない状態となりました。最後の最後まで悩んで、村人やキャンパーのことを第一に考えた決断でした。自分がここまでしてきたことはなんだったのか、と考えたこともありました。しかし、このことは決して無駄にならないと思っています。キャンプには行けませんが、みんなとキャンプへの想いを共有することができ、インドネシアのハンセン病快復コロニーで下見をするための準備を、みんなが進めることができました。毎回のMTGが楽しくて、みんなに早く会いたいと思う気持ちでいっぱいでした。キャンパーのみんなには感謝しかありません。リーダーをやらせてくれてありがとう。

また、スラウェシ島に行くかどうか、キャンプをこのまま実施するかどうか、を考えるにあたって、様々な人に意見をもらい、協力してもらいました。インドネシアキャンプは本当にたくさんの人に支えられてできたキャンプでした。関係者の方には本当に感謝しています。ありがとうございました。

このような形でキャンプは中止になりましたが、私は、約半年間、リーダーとしてここまでやってきたことに悔いはありません。今回のキャンプテーマは「咲」。今回現地に行って笑顔の花を咲かせよう！という目標は達成できませんでした。

「ここまで巻いた種、腐らすことなく力をためて、次のキャンプで盛大に花を咲かせられるといいね！」

これは、私たちがキャンプを中止することを決断したとき、高島雄太さんにいただいた言葉です。素敵な花が咲くことを願っています。

Kaisei Kubo

「やりきった！」これが率直な感想です。昨年8月のインドネシアキャンプ。あみとゆうたさんと「インドネシアキャンプを九州でやろうよ！新しい村、新しい島開拓しようよ！」って言ってからの半年間はすごいあつという間でした。今まで5度キャンプに行って、学んだこと、思ったことはすべてこのインネシキャンプにぶつけたつもりです。だからこそ、インネシキャンプが何よりも楽しかったし、結局行くことはできなかったけど、「やりきった！」って心の底から思うことができたんだと思います。13人の素敵なメンバーたちとここまでやってこれたことをとても誇りに思います。インドネシアに「笑顔」をいっぱい咲かせたかったね……！

ワークキャンプも、FIWCの活動もすべて、誰かの「たのしい！やりたい！」という想いが原点です。このインドネシアキャンプもあみと自分の「やりたい！たくさんの村を笑顔いっぱいにしたい！」の想いから始まったものです。今回は叶わなかった九州のインドネシアキャンプが、また誰かの「やりたい！」の気持ちからスタートしてくれたらいいなって思います。そのときは、全力でサポートするからね！いつかFIWC九州がインドネシアにたくさんの笑顔を咲かせられますように。自分もワークキャンプで感じた「あなたに寄り添って、あなたを笑顔にしたい」の気持ちを忘れず、仕事頑張ります。

キャンパーのみんな、ゆうたさん、インドネシアキャンプを支えてくださったすべての方々、本当にありがとうございました。

ちなみに、夏に有給取れたらドノロジョ村に遊びに行こうと思ってるんですけど、誰か一緒に行きませんか？メンバー募集中です。

Shiho Tanaka

キャンプって素敵だなあ。大切な人と巡り会って家族のような存在になって何度も会いたくて。学生最後の春休みにしたいことはたくさんあったけれど、その中で一番私の心を動かしたのはキャンプ。「キャンプに行きたいなあ」とふと思い、「行けるじゃん！」と気づき、インドネシアキャンパーになった。FIWC九州として初めてのインネシ、私にとって初めてのインネシ、初めての下見キャンプ。新しい出会いにワクワクし、大好きな仲間と過ごす17日間を勝手に想像してとても楽しみにしていた。インネシでやりたいことはたくさんあった。今回インドネシアに行けなかったことは本当に悔しい。でも、今までのミーティングを振り返るとみんなでゼロから積み重ねていったことがたくさんあって、実際に現地に行って活動はできなかったけれど私達がやってきたことには大きな意味があったんだなって思う。

3年前、初めて行ったフィリピンキャンプ。3年前の私は学生最後の春休みにキャンプに行く

ってことを想像もしていなかった。今までのキャンプで大好きな村人や素敵なキャンパーにたくさん出会って、何度も村に遊びに行って、一緒に村に行くってくれる仲間がいて。キャンプの良さに気付くのにには時間がかかったけれど、私はキャンプが好き。今回13人の最高のメンバーで、この13人でインネシ行きたかった。新キャンパーのみんなに村人とたくさん笑い合って、仲間と語り合って、色んな壁にぶつかって、キャンプの良さを心と体で感じてほしかった。いつかみんなでインドネシア行けるといいな。いつの日か、みんなの想いがきれいな花となって咲きますように。

Daisuke Nakagawa

「やっぱりキャンプに行きたかったな。」感想を書くとなるとやはりこれが素直なところだ。新型コロナウイルスという外的要因に遭遇し、様々なリスクと可能性を評価した上での中止という結論は客観的に妥当だと考えるのだが、心の中のわだかまりは消えない。私の過去として、三度のチャイナキャンプと一度のフィリピンキャンプに参加し、大学生活をFIWCに費やしてきた。ワークキャンプには言い尽くせない程多くのことを学ばせて頂いた。今の自分が存在するには間違いなくワークキャンプのおかげであると心から言える。しかし、私はまだワークキャンプの醍醐味を味わい切れていないと感

じていた。過去参加したキャンプは、先輩や中国の協力団体「JIA」が基盤を築いてくれていたものであり、キャンプを「0から1」にする過程に自分は存在しなかった。ワークキャンプの根本を知らないことに、ある種の寂しさを抱いていた。まだ自分を成長させてくれるワークキャンプの可能性に期待していた。また、今後長い将来、インドネシアキャンプで生まれるであろう笑顔の根本に、自分が存在できたらどれだけ幸せだろうと感じた。うん、やっぱりキャンプ行きたかったな。参加理由を振り返るとエゴイステックな自分が垣間見える。しかし、「村人を一番に思いやる」というワークキャンプの理念も対立的に存在し、そんな他己利益と自己利益を最大限に膨らませ、共存させていくこの活動の素晴らしさを感じている。

このインドネシアキャンプで学んだことを少しだけ書こう。それはありきたりだが、「雰囲気作りの重要性」だ。以前自分が所属したコミュニティの中には、雰囲気作りに失敗し、メンバー間に疎外感が生まれ、中途半端なモチベーションが充満していたものがある。そのコミュニティへの帰属意識をなくした段階で当人は時間を棒に振るい、全体にさえ負の影響を与えるのだと痛感した。しかし、このインドネシアキャンプでは、亜美ちゃんと海晴がキャンパーを同じ目線で温かく包む雰囲気を作ってくれた。そのおかげで、キャンパー全員がMTGを楽しまつつ自分の役割に注力し、かつ、個々に「村人のために」

「インドネシアキャンプを成功させる」という統一された意思が生まれたように感じられた。あな、素晴らしや。一見短絡的だが、メンバー間の温かい雰囲気作りが帰属意識を生み出し、個々の成長と方向性の統一に繋げるのだと感じた。ワークキャンプでは「村人のために」という利他的な意識が基盤にあると先述したが、そこが不安定になれば利己的で悪影響を生む活動に転じる。もしキャンプが実施されていたならば、人を思いながら活動する難しさと皆で正面から戦い続ける素晴らしいキャンプになっただろう。こんなにも温かい環境作りをあたかも当たり前のように作ってくれて二人を本当に尊敬している。

こういうことを書いてみると、私はインドネシアキャンプに何を残すことができただろうと感じる。FIWCの活動を通して、それぞれのコミュニティで自分の役割を考える癖がついた。このインドネシアキャンプでは、自分の経験や考えからMTGを整え、新キャンパーに発言の種をまこうと意識した。自分が正しいと思っただけの役割であったが、それが自由な発言を妨げているかもと不安になることもあった。客観的に計りがちで主観的になりきれない自分や、リスクを抑えるためにある意味妥協する自分の考えが嫌になることもあった。悲観的にもなるが、新キャンパーの目まぐるしい成長と今後のインドネシアキャンプの発展の一因となれたならば、私は幸である。

さて、締め方がわからない。ありきたりな言い方だが、私はインドネシアキャンプに参加してよかったと思っている。尊敬できる素敵なメンバーに囲まれて充実していた。愛と勇気強めな人や、一際ネガティブだが明るい雰囲気を感染させてくれる人、何かを学び取ろうと常に謙虚に見張っている人などなど、自分に足りない面を持つ人達と刺激し合えて良かった。もう少し一人一人と向き合いたかったと心残りがあるくらい。キャンパーの皆様、ありがとうございました。今後もうインドネシアキャンプに参加しないであろう私が、無責任にキャンプに口出しすることはできないが、今後誰かがインドネシアキャンプを再開させるその時は喜んで協力致します。

最後に思い出したように書くが、私がインドネシアキャンプを含めワークキャンプを通して得た一番大きなことは、「人を思って行動する自分になれたこと」だ。綺麗事のように聞こえるが、これを忘れずに精進して行きたい。

それでは最後まで一貫性のない感想でありましたが、お読み頂きありがとうございました。幸。

Natsuki Kido

今回 FIWC のキャンプに初めて参加した、西南学院大学2年の城戸夏葵と申します。長くなりますが、少しの間、お付き合いいただけ

ると嬉しいです。

インドネシアキャンプに参加することを決めた理由は、「他者を知り、自分を知る」ためでした。これについて長々と応募理由書を書いたのですが、正直に言うと、これは上から2番目の理由で、1番の決め手はリーダーの亜美と相方の海晴さんの人柄の良さが理由で参加することを決断しました。特に、応募理由書の提出期限ギリギリまで悩んでいた私に、何度も前向きな言葉をかけて下さった海晴さんには本当に感謝しています。ありがとうございました。

m (_) m

12月の私は、色々なことに焦り、悩んでいて、何をするにも前向きに考えることができませんでした。自分に自信がなく、自分の選んだ道を信じることができませんでした。何かを始めても、最初だけ「頑張る」と口では言いながら、後からそれを裏切るように怠惰になっていく。これ以上そんな自分を見ることが、嫌で嫌で仕方がなかったです。けれども、そんな時に「なんでも聞いてよ!」「大丈夫!」などと言葉をかけてくれた海晴さんが、あの頃の私には仏のように見えました(笑)。私の背中を押してくれて、本当にありがとうございました。

亜美と海晴さんのエールで、キャンプに参加することを決めてから今日までの3ヶ月間は、参加する前の私には想像できないほど、充実していて、楽しい日々でした。

前に私は、「自分に自信がない」と書きましたが、私が思う「自信」とは、文字通り「自分を信じること」です。そして、今の私が思っている自分を信じるための基準は、「自分の行動」です。自分に自信を持つためには、まずは行動することが大切だと思います。多くの人は、「自分の言葉」を信じがちです。もちろん「〇〇を頑張る!」や「絶対に〇〇する!」のような言葉を使って、自分の行動を明確にすることも大事です。しかし、その言葉どおりに物事が進まなかったら...そしてそれが何度も続くと...人は自信をなくすのだと思います。

けれども、行動は自分の経験として、しっかりと身体に刻まれます。自分がしたことだと、身体を通して実感することができます。また、記憶にも残り、思い返すこともできます。なので今の私は、自分の「言葉」よりも、自分の「行動」を基準にして、「自信」をつけていこうと思っています。

私はこの3ヶ月の中で、自分がやれることはできたと思います。安全管理の課題やTシャツデザインの課題、キャンパーチャレンジカップの発表やメンバーカードの作成など、どれも全力で取り組んだと自信を持って言えます。特に、Tシャツのデザイン案やキャンパーチャレンジカップ、メンバーカードの作成は自分の身を削って作業しました。幸運なことに、私は絵を描くことが好きで、デザインは人よりも得意です。なので、自分の強みを最大限に活かして国内の活

動に取り組むことができました。

しかし、本気で自分と向き合い、成長したいのであれば、自分の弱さと向き合うべきで、今回それができなかったことを悔しく思います。私は自分と異なる文化を持ち、異なる言語を話す人と関わるのが苦手で、いつも逃げてしまいます。キャンプが中止になったことを残念に思う反面、不安や怖さから解放されて安心している自分もいます。矛盾を抱えた私ですが、今回のインドネシアキャンプを通して、少しでも勇気を持てるようになればいいなと思っていました。1人ではなくて、仲間がいれば大丈夫かもしれないという、小さな希望を抱いていました。

キャンプが中止になった翌日の朝に、用意していたバックパックを片付けました。荷物を取り出しているのに、まるで希望を取り出しているようで悲しい気持ちになりました。そこで私は、キャンプに期待している自分がいたことを実感し、改めてキャンプへの想いを感じることができました。キャンプは中止になってしまったけど、3ヶ月間、このメンバーと同じ時間を過ごすことができ本当に良かったなと思います。

最後に、インドネシアキャンパーの皆に私の好きな言葉を2つ、送ります。1つ目は、漫画「映像研には手を出すな!」より、

「大半の人が細部を見ていなくても、私は私を救わなくちゃいけないんだ。」

(アニメーター志望・水崎つばめ)

Kaori Kiyasu

今回のインドネシアキャンプは、私にとって初めてのキャンプでした。そのキャンプが中止になり、とても残念です。インドネシアの方達には少し申し訳ないけれど、村人に会えなくなったから、というよりも、キャンパーたちと過ごす時間が足りなすぎたから、ということが正直な理由です。私がキャンプへ行く目的は、①世界を少しだけ広げる、②何かを学ぶ、③出会ったことのない人に会う、という、ひどく漠然としたものでした。「村人を笑顔にしたい」「ワークを通じて村人を助けたい」「以前会った人にもう一度会いたい」...そんな高尚で具体的な理由があればかっこよかったかもしれないけれど、私にはそんな考えはありませんでした。当たり前といえば当たり前です。“ハンセン病回復村” “インドネシア” “村人” これまで縁もゆかりも無かった言葉、顔も知らない村人、ネットにも載っていないような知らない村に対して親近感がわくはずもありません。今回は FIWC として初めてのインドネシア、下見キャンプという役割がありはしましたが、それでも村で何をするのか、何をすべきなのかということについて、新キャンパーでもある私にとっては全く雲をつかむような話でした。

「本当にね、目の前の人と向き合うって感じで、村人がとても温かくて、それが良かったの！」

ください。

2つ目は、「働きたくない」というあなたへ」(102頁)より、

「自分がやると決めたらそれを”特別なことなのだ”と信じてやる。[...]自分がする毎日の小さな仕事を”特別なこと”にしていけばいいのだと思います。」

(文章表現インストラクター・山田ズーニー)

キャンプのメインである、インドネシアでの活動は中止になってしまいましたが、この3ヶ月間は私にとって特別な思い出になりました。成功や失敗、また後悔さえも、「特別なこと」だったと言えます。今は元気だけど、また落ち込む日が来るかもしれません。そんなときは、メンバーの誰かに電話でもして、相談に乗ってもらおうと思います(笑)。

ではでは、長くなりましたが、2020年春のインドネシアキャンプに参加できて本当に良かったなと思っています。これまで一緒にキャンプを作り上げてきたキャンパーの皆に、心からの感謝とエールを。そして、キャンプに参加しようか迷っているそこのあなたにも、エールを与えることができたらいいなと思います。

最後まで読んでくれて、ありがとうございます。

私が誰も気づかないような、細かいところまでに手を加え、時間をかけてメンバーカードを作成したのは、他でもないインドネシアキャンパーたちと自分のためです。私は私が納得していないものを、誰かに見せたり、あげたりすることはできるだけ避けたいと思っています。ここでの「私を救う」とは、自分が望むことを自分にしてあげること、自分が納得するまで、とことん自分に付き合ってもらえるという意味だと思います。そして、自分を救うためにしてきたことが転じて、人のためになるのだと私は考えます。

私だけではなく、T シャツのデザインを考えてくれたメンバーや、キャンパーチャレンジカップのプレゼンを誰よりもこだわって準備していたメンバー(私も負けてないけどね!笑)、また、自分の睡眠を削ってまで動画を作ってくれたメンバー、そして、私が想像もできないくらいにキャンプのことを考えて、準備をしてきたメンバー、その他のメンバーも私が見ていないところで、自分のために、そしてキャンパーのために、心血を注ぎ、身を削る思いで活動した3ヶ月だったのではないかと思います。本当に、お疲れ様でした。

前に、自信を持つには「行動が全てだ!」と、上から目線でものを言ってしまいましたが、ここでの「行動」には「成功」だけでなく、「失敗」も含まれています。例えばこの3ヶ月間が「失敗」だと思っても、それはいつか自分の原動力になります。自分を信じて、これからを過ごして

私が FIWC 海外キャンプについて知ったのは去年の9月頃。夏のチャイナキャンプへ行った友達から話を聞いたときです。そのときは、うれしそうに話す友達に対して「良かったねえ」と思うくらいでした。その後、春キャンプの説明会が開かれるようになり、具体的な話の大枠が分かってきました。「春休み暇だなあ・・・行ってみようかな」そのくらいの気持ちで、申し込みました。そして、冒頭に挙げた3つのことの助けになるだろうとも考えました。

しかしミーティングを重ねるにつれ、ひとつ疑問がわきました。「笑顔にするってどういうことだろう」ということです。今回のテーマは“咲”、笑顔の花を咲かす。私は普段よく「本当の幸せって何だろう」とか、「生きるって何だろう」とか抽象的なことを考えることが多いので、今回も「笑顔にするってどういうことだろう」と考えずにはいられませんでした。本当に私たちが行って村人はうれしいのだろうか、私たちが幸せと思っていることを同様に村人も幸せと感じるのか、笑顔ってしてもらうものじゃなくて自然とこぼれるものじゃないか、何十年も住む村にいきなり日本人が入ってくることに心の中では抵抗があったりはしないのだろうか...一生懸命企画してくれた人には申し訳ないけれど、疑問や違和感がわいていたことも事実です。しかし、日本で議論していてもしかたありません。村人やこれからのキャンプのため、という目的も持

ちつつも、もしかしたら自己満足かもしれないこと、自分が学ばせてもらうこともたくさんあるだろうということは忘れないでいようと考えていました。私の疑問に対する答えを確かめるためにも是非現地に行きたいと思いましたし、キャンプ経験者がキャンプ当時のことをとても楽しそうに話すので、やっぱりいい時間を過ごせるんだろうなどは思っていました。

そして、ミーティングを重ねていく中で、キャンパーのみんなのことをどんどん素敵だと思えるようになりました。1、2年生の時にあまり課外活動をしてこなかった私にとって（一応、理由はありますが）他大学の友達、他学部の友達ができることがとてもうれしかったし、刺激になりました。面白い企画をするなあと思ったり、資料づくりすごいなあと思ったり、ミーティング以外の時間もすごく準備してくれたりしていて、私も頑張らなきゃと思ったし、もっともっとみんなと話したい、みんなのことを知りたいと思うようになりました。でも数時間のミーティングではとても時間が無かったし、なかなか話しかけられず、だからこそ本番が楽しみでした。もしかしたら、他のキャンプ、他のメンバーとでも同じ事を言っていると思いますが、それでもやっぱりこのメンバーで良かったなと思います。先に述べた3つの目的ですが、本当は、ミーティングだけでも達成することはできました。インドネシアに行けばその幅が少し広がるだけです。

このインドネシアキャンパーとはこれからも会えたらいいなと思うし、もっといろんな話、どうでもいいことから深い話までしたいなあと思います。

こんな風に感想を書いていると、Camper Challenge Cup で企画したことや現地話を聞いて想像し、楽しみにしていたことなどが全て幻になってしまったことが改めて残念でなりません。また、日本にいながら様々なことを考え、行きたいと思ったときにキャンプに参加したいと思います。そして、今回のインドネシアキャンパーの関係がもっと長く続けばいいなと思います。ありがとうございました。

Shinya Sakaida

まず、私がインドネシアキャンプに参加しようと思った理由は、海外に行きたかったということ、新しいことにチャレンジしようと思ったからである。一年生の間は授業とバイトしかしておらず、充実感が全くなかった。そこで、2年生からは何か始めようと思い、色々考えた結果海外ボランティアがしたい！という結論に至り、FIWCの活動に参加することにした。10月の耶馬溪の活動であみとかいせいさんからインドネシアキャンプについての話を聞き、春から新たに誕生するキャンプということで何か新しいことにチャレンジしたいという自分の思いと重なり、春のインドネシアキャンプに参加する

ことになった。

キャンプの MTG では、自分がキャンプ未経験 + 自分たちで新たにつくるキャンプということで分からないことだらけであり、振り返ると結構大変だったなと感じた。(あみ、かいせいさん、大輔さんはそれ以上に大変だったと思う。)しかし、MTG 中はめんどくさい、早く帰りたいなといったマイナスな感情はほとんどなく、むしろ楽しいなと感じることが多かったし、とても充実した時間を過ごすことができたと思う。そのような感情を抱くことができたのも、キャンプ経験者の3人の方々が MTG で自分を含めた新キャンパー達をリードしてくれ、また新キャンパーの人達も自分の考えをしっかりと持って MTG にのぞんでいたからだと思う。出国前の活動を通して、キャンパーそれぞれの個性やいいな、すごいなと感じるところをたくさん見つけることができ、キャンプに行くことがすごく楽しみだったし、キャンプを通してみんなとより仲良くなりたと思っていた。そのため、今回コロナウイルスの影響でキャンプが中止になったのはとても残念だったし、立ち直るのに時間もかかってしまった。しかし、中止と決断したこと自体は間違いではなかったと思うし、8回の MTG や中止するかどうかの MTG を通してみんなで考えたことは決して無駄にはならない時間だったと思う。

今回の活動を通して、改めて自分の未熟さや力不足であることを感じた。例えば、新型コロナ

ウイルスの件に関してももっと前の段階からリスクについて考えておくべきだったし、危機意識もキャンプが近づくまでとても低かった。MTG に関しても、自分の意見を言えるタイミングはもっとあったかなと思った。

これらのことを通して思うことはやはり、もう一度インドネシアキャンプをやりたい！チャレンジしたい！ということである。今回のキャンプで反省すべき点も見つかり、インドネシアに行きたいという思いもよりいっそう強くなった。まだどうなるかは分からないけど、今回準備してきたことを無駄にはしたくないし、次につなげていきたいなという思いでいっぱいである。おっばいボールを持っていくというかいせいさんの切なる願いも叶えてあげたいです(笑)。

最後に、みんなと楽しい時間を過ごすことができるとてもよかったです。ありがとうございました。(終っばい)

Sayuri Tanaka

私は説明会でドノロジョ村での生活がとても楽しそうだと感じた。だから、私もキャンプに行きたいと思い、今回インドネシアキャンプに参加した。初めてのキャンプで何するか全然想像がつかなくて、ハンセン病についての知識も全くなかったから不安だった。しかし、インドネシア MTG を通して、キャンパー全員がとてもやさしく、このメンバーなら何でもできると思った。

今回のインドネシアキャンプは下見であり、これからインドネシアキャンプを作っていく大切なものだった。一から始めるものだから、何が村人を笑顔にさせるのか案を考えるのが難しかった。そして今回は1つの村だけでなく、4つの村に訪問するというとても貴重な体験ができるものだった。それぞれ村の特徴に合わせたイベントを考えつつ、次の夏キャンプに向けての下見も行う準備はしっかりできていた。

しかし、決起会も終えて、出発直前にコロナウイルスの感染が問題で、今回のキャンプを中止すると全員で決めた。とても難しい判断だったけど、全員納得して決めたことだから、これで良かったのではないかなと思った。今まで8回の MTG やそれ以外でたくさん準備してきたものが無駄になると考えると悔しい。だからこそ、今回私たちが行ってきたことを次につなげるのが大切なのではないかなと思った。夏にインドネシアキャンプがしたいと思った人がいれば協力したり、自分ももう一度参加したり、私たちの思いを伝える方法はたくさんあると思う。

私は今回のキャンプに参加して、人との出会いが大切だと思った。いろんな考えを持った人がいて、こんな考え方もあるのかと刺激になった。また、出会いがあればそれだけ情報も多く入ってくるので、自分を成長させるチャンスも大きくなると思った。今回のインドネシアキャンパーとの出会いも大切に、また機会があれば一緒に活動したいと思った。結果的にインドネ

シアキャンプに行けなかったけど、このメンバーに出会えて本当に良かった。

Arisa Noda

インドネシアキャンプに参加したことで、私は本当に多くのことを学び、たくさんの人との出会いを経験しました。自分の考えや思いが形になっていく実感を得ながら、今までにない楽しさやわくわくを感じられたと思います。大変だったことや不安なこともあったけれど、自分の心に向き合う大切な時間を過ごさせてもらいました。そのどれもがここで出会えた仲間のおかげです。1人ではキャンプの参加に一步踏み出すのが精一杯だった私を、みんながずっと引っ張って支えてくれたおかげでここまでがんばれたのだと思います。キャンプTシャツや交換日記のデザインを頼まれたとき、初めは自信がなかったけれど、みんなのためになれたことが自分にとっての誇りでした。キャンプは無くなってしまったけれど、この経験をきっと将来に役立てて行こうと思っています。またみんなで集まれる日を楽しみにしています！本当にありがとうございました！

Mashiro Furumoto

私が今回インドネシアキャンプに行こうと思ったきっかけは、たまたまあみちゃんが他の人

にキャンプについて説明をしているところにおいて、軽く聞いていてどんどんその話に引き込まれ、私も行きたいと思ったことが始まりです。海外ボランティアをしてみたいという気持ちは以前からありましたが何も行動に移すことができていない状態でした。いつも私はそうでした。何かしたいと思っていてもいつか、また今度のように行動に移せた経験はほとんどありませんでした。今回はそんな自分を変えたいと思い、色々考え応募締め切りギリギリまで悩みましたが、行くことに決めました。この決断をして本当に良かったと心から思っています。その一番の理由は最高のメンバーに出会えたことです。この出会いは私の宝物です。みんなと真剣に話し合いをしたり、笑いあったり、濃い楽しい時間を過ごすことができて最高でした。本当にみんなと一緒にキャンプに行きたかったです。コロナの影響などを考えみんなで何時間もかけて電話ミーティングでキャンプ中止を決めたことでたくさんの大切なことを学びました。

インドネシアキャンプに向けて今までたくさんのミーティングなどをしてきました。最初は緊張でミーティングでも何も言えませんでした。自分の意見をはっきり言っているみんなにただただ圧倒されていました。回を重ねるごとに本当に少しずつではありますが自分の意見をみんなに伝えることができるようになったと思います。これは私にとって大きな収穫でした。しかし、まだまだ全然受け身の姿勢であり積極性に

はかけています。それをキャンプ中止を決定した電話ミーティングで痛感しました。今までリーダーのあみちゃんをはじめ、周りのみんなに頼りっきりになってしまっていたこと、今回の反省でありまた勉強になったことでもあります。今回はコロナの影響で残念ながらキャンプに行くことができなくなりました。キャンプに行けなくなったことは仕方のないことであり誰も悪くないことでしたが、どこにもぶつけようのない悔しさや悲しさがありました。しかし今までしてきたことは絶対に無駄にはならないと思っています。こう思えたのはあの電話ミーティングで自分の気持ちをしっかり再確認できたからだと思います。これから私たちにできることはたくさんあります。今後またインドネシアキャンプが行われることになった時に、私たちが今回のキャンプに向けて準備したことやキャンプへの気持ちをその時のキャンパーに伝えるなど今後につながることをこれから頑張っていきたいと思っています。今回のキャンプを通して本当に多くのことを学びました。自分の意見を共有することや協力することの大切さ、また楽しさなど学んだことをこれからの生活に生かしていきたいと思っています。最後になりましたが今回のキャンプのメンバーのみなさんはもちろん、たくさんの協力をしてくださった方々、またキャンプに行くことを許可してくれた両親に感謝します。本当にありがとうございました。

Ayuka Maki

私は今回新キャンパーとしてインドネシアキャンプに参加することを決めました。キャンプについてはわからないことばかりで不安もあったけれど、インドネシアキャンプは今回がFIWC九州で初めて行うものと聞き、これからのキャンプを作っていくことに少しでも関わりたいと思い、行き先をインドネシアに決めました。インドネシアキャンパー12人は優しい人ばかりで、毎回MTGに行くのが楽しみでした。MTGでは、キャンプ地やキャンプで訪ねる村でいたいことについて意見を出し合いました。みんなの発想の豊かさに驚き、自分の考えが甘いことを痛感させられることもありました。村の情報や村人の様子から、生きている楽しみがないと聞いたときは、自分たちが行くことでその気持ちを変えてもらいたいと思いました。今回はキャンプに行くことができず、インドネシアの村の方に会えなくなって悲しいですが、MTGを何回も重ねたことは決して無駄にはなっていないと思うし、とても良い経験ができました。MTGを通して学んだことは今後の普段の生活でも生かしていきたいと思います。そして、大学生のうちに1度はキャンプに行き、さらに多くの学びを得たいです。MTGの内容を決めて楽しく企画してくださったあみさん、かいせいさん、オールドキャンパーの皆さん、インドネシアの村を調査してくださったゆうたさん、アディン、キャンプに

ついでいろいろなことを話し合った新キャンパーの皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。出会うことができ、そして一緒に活動できて本当に良かったです。

Kanato Mori

中止になってしまいましたが、安全管理に関わるノウハウを学んだり、キャンパーと楽しく準備をする時間は非常に有意義なものとなりました。今後キャンプに関わる機会を持つことが出来るか分かりませんが、ここで学んだことを将来的に生かしていけたらと思っています。ありがとうございました。

Miho Yamamoto

私はこのインドネシアキャンプが初めての参加でした。最初は新しい事に挑戦したい、海外に興味があるなど漠然な理由から始まりました。ですがFIWCの夏キャンプ報告会に行き、海外キャンプの魅力を知り、私もキャンプに行きたいという思いが強くなりこのキャンプに参加する事決めました。今回は残念ながら行くことは中止になってしまったのですが、このキャンプに参加して感じたことを書きたいと思います。まずインドネシアキャンプは様々な大学、学年の人達が参加していました。その分自分とは違った考えを持っている人、自分が気づかなかっ

たことに気づかされる場面が多くありました。このキャンプに参加して、沢山の人と関わる事で自分の考えや物事の見方を少し変えたのではないかなと思います。また、初めの頃はインドネシアやハンセン病について知っていることはほとんど無い状態でした。ですがこの4ヶ月間、インドネシアキャンプに向き合って世界にはハンセン病によって差別をされてきた人がいること、それは今も続いていること。ハンセン病は不治の病ではありません。ちゃんと薬を飲めば完治するにも関わらず、私たちがハンセン病について正しい知識を持っていないからこそ差別が生まれています。私が今一番強く思っている事は、この経験が無駄にする事なく私が得た知識、事実を広めていかなければならないということです。それはどんな形でも良いと思いました。ハンセン病について日本で特別取り上げられている訳でもない、学校で教えてもらえる訳でもない、普通に生活していたら関わらない事ではないでしょうか。私もこのキャンプに関わらない限りそうだと思います。だからこそFIWCの活動を通し伝えることが何より大切な事だと思います。

2020 Spring Indonesia WorkCamp All Campers

FIWC 九州委員会

久保山亜美 西南学院大学文学部外国語学科英語専攻2年
久保海晴 九州大学法学部4年
田中志歩 福岡教育大学教育学部初等教育教員養成課程4年
中川大輔 九州大学農学部生物資源環境学科3年
城戸夏葵 西南学院大学国際文化学部2年
喜安花央里 西南学院大学人間科学部心理学科2年
境田伸哉 九州大学工学部地球環境工学科2年
田中彩友里 佐賀大学農学部生物環境科学科2年
野田有紗 九州大学農学部生物資源環境学科2年
古本真白 西南学院大学文学部外国語学科英語専攻2年
牧歩果 西南学院大学文学部外国語学科英語専攻1年
森奏斗 九州大学共創学部1年
山本未歩 中村学園大学栄養科学部栄養科学科1年

JALAN Workcamp Coodinate Center

高島雄太
Nadhila Beladina

